

24キワットレーザー機を導入

かねよし、板厚30ミリ超対応

一般鋼材やステンレス、アルミの加工販売を行うかねよし（本社＝埼玉県川口市、吉田竜一社長）は来年2月をめどに発振器出力24キワットのファイバーレーザー切断機を導入する。国内最大級の高出力機で、加工速度の向上と対応板厚の拡大を実現する。投資額は2億5000万円。新鋭機の生産性の高さを生かし、受注拡大につなげるとともに、厚板レーザー加工の対応範囲を板厚30ミリ超に引き上げ、産業機械向けなどの新たな需要を取り込む。

国内最大級の高出力

トランプの2次元レーザー加工機「Tru Laser 5030 fiber 24kW」を新設し、既存のCO₂レーザー切断機と入れ替える。レーザー

切断機の保有台数は全8基で従来と変わらない。CO₂レーザーからの切り替えによって消費電力の大幅な削減につながるほか、板厚19ミリまでは12キワットの加工ができる。ステ

で加工することができ、今回の投資は環境共創イニシアチブの省エネルギー投資促進支援事業に採択された。軟鋼は板厚最大40ミリまで加工できる。ステンレス鋼板やアルミ板も同40ミリまで対応し、銅は16ミリまで加工可能。加工サイズは5×10ミリ。切断速度はトランプによると、最大で従来比3倍に達するという。

加工能力の増強に加え、厚板レーザー加工の領域を拡充するのも狙いの一つ。同社は現在、板厚25ミリまでの厚板を常時在庫しているが、同機導入後は「板厚32ミリまでラインアップを拡充したい」（吉田社長）考え。同機は「面取り」や「皿モミ」をレーザーで行うトランプ独自のエッジペーパー機能を搭載。同社が手掛ける折り曲げや穴開け、溶接などの次工程との連携も一層高まると見込む。